

3. Iwata & Kusaka: *Coniferae Japonicae Illnstratae*, (see fig. 74 et 81)  
p. 196 (1952).

4. Kusaka: *Transactions of the 62nd Meeting of Japanese Forestry Society*.  
p: 1-2. fig. 2 (1953).

□Léon Croizat: *Manual of phytogeography* (pp. 690, pl. map. 105. Junk 発行  
the Hague 1952)

An account of plant dispersal throughout the world と言う副題がある。この書は世界的規模における植物分布の道すじを主題にした論文ともいべき性質のものである。即ち顯花植物が出現した場所にはふれないが、現在の顯花植物の直接の祖先 (modern angiospermy) はジュラ紀末から白堊紀の初頭に3つの門 (gate of angiospermy) から分布をはじめた。アフリカ南部、西ポリネシア、マジエラニアがこれで、第1が特に重要な役目を演じた。これから発した archetype の流れは地球上に一定の道 (truck) を劃している。この道をとおる genorheitra の流れは偶發的な陸橋などによるものではなくて、秩序的、反覆的になされたが、この書では事実をのべるだけで解説は下されていない。流れ更に第二次の分化の中心を各地域に作り、そこから現在の分布地に達した。第2の分化期は白堊紀末から第三紀の初頭の地球表面変動期である。氏はholoarctic 分布の存在は神話的であるとし、すべてを南方起源に帰している。膨大なデータと文献をあつかつて、教えられることが多いが、なおデータの不足と取扱い方のあらつぼさはまぬかれない。氏はハーバード大学からヴェネズエラのカラカス博物館に転じ、アンデスの麓、オリノコの河畔を逍遙しつつ、第2著動物分布論の稿を進めている由。(津山 善)

### 正誤表 Errata for J.J.B. 29 nos. 1, 2 & 3

No.	頁 (page)	一行 (line)	誤 (for)	正 (read)
1	11—6		of	delete "of", of をとる
	20 欄外 (foot note)		aud	and
	26—9		3	2
	27—5		tne	the
	"—35		auther	author
	28—15		もの言われる	ものと言われる
	32—21		本年	昨年
2	48—22		一昨夏	昨夏
3	93—lowest		下記を加える	add," Sept. 1950—Typus in Herb. Agr. Coll. Matsuyama)